

アナログアキュライザーの活用(1)

－DSD 録音(1)－

1. 始めに

システムに何らかの手を加えた場合、その音質を試聴して報告するとともに、TASCAM DA-3000 で録音して残すことにしています。今回、アナログアキュライザーの導入にともない、その音質を記録、確認するために録音しました。

2. アナログアキュライザーの DSD 録音と試聴方法

今回は、PC オーディオと NAS からの再生を録音してみます。下記のように Brooklyn DAC+への AACU-1000 の装着効果をみます。

TIDAL および YouTube

PC→Brooklyn DAC+→AACU-1000→P&G フェーダー→DA-3000

CD リッピング音源および MQA-CD リッピング音源

fidata HFAS1-S10 →Brooklyn DAC+→AACU-1000→P&G フェーダー→DA-3000

録音は、TASCAM DA-3000 にアナログ入力し、DSF 5.6MHz で録音します。TASCAM DA-3000 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

TASCAM DA-3000 の SD カードから録音済音源を fidata にコピーし、fidata から読み出して、MYTEK Brooklyn DAC+経由で再生します。

3. アナログアキュライザーの DSD 録音の試聴結果

アナログアキュライザーを加えた DSD 録音音源を fidata から読み出して MYTEK Brooklyn DAC+経由で再生しました。

TIDAL からは MQA グレードの音源から録音したものと YouTube の音源を録音したものを fidata HFAS1-S10 から読み出して再生しますと、元音源が PC 経由のストリーミング再生と思われないほどです。特に YouTube の音源は YouTube と思えないほどのクオリティです。録音前の PC から再生する場合と比べてみますと、ほとんど劣化らしいものは感じられません。

MQA-CD リッピング音源を fidata HFAS1-S10 から読み出して録音したものと CD リッピング音源を fidata HFAS1-S10 から読み出して録音したものを fidata HFAS1-S10 に収納して再生し、元のリッピング音源の再生と比較してみましたが、劣化はほとんど感じられず、WAV から DSD に変換されたことで、むしろ録音音源の方が伸び伸びと鳴っているくらいに感じられます。

4. まとめ

アナログアキュライザーの効果が、PC オーディオと NAS からの再生における DSD 録音でも確認できました。

以上